

特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン

A B L E
A R T
J A P A N

2021 年度 事業報告
[期間：2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日]

2022 年 6 月 18 日

■2021 年度 事業報告

「私たちの NP0 の役割と仕事が変わる」。

そう確信して歩みをすすめた 2020 年度。

種まきした事業が本格的な実践に入る。それが 2021 年度の全体像です。

[2021 年度の行動指針]

● NP0 の理念と支援への協力を発信（基盤のリニューアル）

エイブルアートの理念、そして活動の今を知っていただき、ファンをつくり、共感をバネに協働者や会員、寄付者を増やしていく挑戦を継続します。オンラインサロン、事業報告会のオンライン化、そのアーカイブと発信などです。またウェブサイトのリニューアルに取り組み、SNS の更新と連動していきます。

● オンラインによる未来志向の実践（再掲）

オンラインは、物理的な空間をこえて対話できることを実感できる利点もあります。この時代に私たちが与えられたひとつのメディア（道具）として、オンラインともうまくつきあっていくような知恵を、とくに障害者・生活困窮者・高齢者等の NP0 の現場とも共有します。学習支援環境の劇的な変化が先行する子ども支援、教育支援 NP0 にたくさんのヒントがあるはずです。異業種の活動に学びながら実践を高めます。

● 社会に生じる新たな‘障害’に向き合い、その課題解決を通じて事業（仕事）を生む（再掲）

コロナ禍、社会に生じる‘障害’に向き合い、その課題解決にむけて活動していたら、いつの間にか事業が生まれ、また支援の輪が広がりました。NP0 の財源バランスにとって重要な、自主事業～自ら仕事をおこし、持続していくための事業を、このターニングポイントにこそ開発していきます。

● 組織基盤の強化（再掲）

2019 年度の振り返りのなかで課題になった点「組織基盤強化」に着手したいと考えています。法人の運営を担う中堅職員の雇用、法人の各種規程の整備と改訂、そして会員の仕組みについての見直し等です。理事やスタッフ、第 3 者を含めてワーキングチームをつくり取り組みます。

[スタッフ体制]

● 法人本部/東京事務局

・内野悦子（非常勤/2015 年 9 月～）

法人事務局の経理、労務を担当。

・原衛典子（非常勤/2019 年 4 月～）

家業の経理事務、飲食業に従事。法人の広報活動およびミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。

・平澤 咲（非常勤/2019 年 4 月～）

福祉事業所にて手織りと紙漉きの創作サポートとケア、都内公園にて誰もが参加できる体験プログラム企画やアクセシビリティに携わる。ミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。

・今野優紀（非常勤/2021 年 8 月～）

デザインの展示施設にて展覧会の企画アシスタント、障害のある人の表現活動を社会に伝えるプロジェクトにて展覧会事業を担当するなど、主に展覧会の制作やマネジメント、コーディネートを務める。現在はミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。

● 東北事務局

・伊藤光栄（常勤/2021 年 6 月～）

特別支援学校教員やイラスト制作会社、遊漁船業を経て、2021年6月からエイブル・アート・ジャパンに従事。障害者の生涯学習事業、障害者芸術活動支援センター事業、仙台市文化プログラムを担当。

・伊藤いづみ（非常勤/2021年6月～）

2018年から家族とともにエイブルアートのアトリエ&スタジオに参加。法人の広報活動および仙台市文化プログラムを担当。

● エイブルアート・カンパニー東京事務局

・大井卓也（常勤）

一般財団法人たんぽぽの家所属。2020年12月からエイブルアート・カンパニー東京事務局の業務を担当。

・中塚翔子（常勤/2016年7月～）

社会福祉法人わたぼうしの会所属/一般財団法人たんぽぽの家出向。エイブルアート・カンパニー東京事務局の業務を担当。（2021年12月まで育休取得）

➤ 2021年度全体を振り返って

（1） スタッフ体制の充実

東京事務局4名（継続3・新規1）、東北事務局3名（継続1・新規2）となる。とくに、30代のスタッフ4名とエイブルアート・カンパニーの2名により、会議や事業で活発な連携が生まれた。これにより各種事業が前向きに推進され、互いが刺激を得ながら成長している様子は、この1年の組織の劇的な変化である。

（2） 業務手法の検討

コロナ禍、在宅勤務やフレックス制を継続した。コミュニケーションツール（slackやTrelloなど）を導入し、各事業のタスク管理をオンライン上で行い、これを事務局長ほかスタッフが常時確認できるようにした。また、東京と東北の合同スタッフ会議をオンラインで定期的開催。上半期は組織全体の事業への理解、情報交換を実施し、後半は、活発化する事業にあわせて、広報、国際交流、企業CSR活動、大規模催事などを分担し、具体的な連携を促した。

（3） 東京事務局のハイライト

新たに着手した、文化庁「ミュージアム・アクセス・センター設立事業」。ワーキングチームによる定期的な会議を経て、調査・ヒアリングを完了し、2年目（令和4年度）以降は、具体的な実践および事業提案にうつる。令和4年度から、核となる人材を新たに1名（常勤）雇用する。

（4） 東北事務局のハイライト

新たに着手した、文科省「障害者の生涯学習に関する実践研究」と厚労省「障害者芸術文化活動普及支援事業 南東北・北関東広域センター」事業。福祉・文化・教育・経済分野を横断した中間支援組織の活動が加速しているため、情報の発信およびアーカイブ機能となるウェブサイト（東北）をリニューアルした。

（5） 定款の変更と事業転換への準備

近い将来、「障害福祉サービス事業」にいつでも着手できるように、総会で承認を得て定款を変更した。エイブルアートが27年以上継続しているオープンアトリエ&スタジオは、生涯学習の視点から関心が集まっており、運営の基盤にどのような公的資金が活用できるか見定める必要性がきている。その検討、準備、実務を担える体制をつくるために、令和4年度から新たに1名（常勤）を雇用し組織の体制整備をはかる。

■事業内容

✕印：未着手、▲印：部分的に実行

[総務]

1. 会議等の業務

(1) 第11回通常総会の開催

日時：2021年6月19日(土)14:00～16:00

- ・ オンラインミーティングシステム Zoom 会議室
- ・ 2020年度事業報告(案)・活動計算書決算(案)の承認
- ・ 2021年度事業計画(案)・活動計算書予算(案)の承認
- ・ 定款の一部変更、役員改選

(2) 理事会の開催

- 第21回：2021年5月14日(木)18:30～20:30
オンラインミーティングシステム Zoom 会議室
- ・ 2020年度事業報告(案)・活動計算書決算(案)の承認
- ・ 2021年度事業計画(案)・活動計算書予算(案)の検討 ほか
- 第22回：2021年7月✕、第23回：2021年9月✕

2. 会員に対する業務

- ・ 会員の入会、継続、休会に伴う業務
- ・ 2020年度事業報告・活動計算書および2021年度事業計画(案)・活動計算書(案)の送付
- ・ ニュースレターと事業案内を発送(年2回程度)→ウェブサイト、SNSによる発信に切替え

3. 経理などの業務

- ・ 資金管理として、現預金などの日常の管理状況を明らかにする。顧問契約は、よしみパートナーズ会計事務所(東京)
- ・ 運営基盤の確立のために月次ごとの収支計画をたて、確実に遂行✕
- ・ 税務に関する業務として、法人税や消費税、源泉徴収税等の税務関連の業務
- ・

4. 労務管理などの業務

- ・ 法人でスタッフを雇用するための準備
- ・ 法人に関連する業務を行うスタッフの労務面等において配慮
- ・ 各種規程・規則の変更を検討、職員給与の検討▲
セクシュアルハラスメントの禁止、職員の休日、個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針、教育訓練

5. 総務関連などの業務

- ・ 業務運営に必要な届出業務
- ・ NPO法人としての東京都への2020年度事業報告・活動計算書の提出(総会後6月末完了)
- ・ 当法人に依頼がある後援名義の借用等の検討と対応

6. 広報・寄付キャンペーンなどの業務

- ・ ウェブサイト、フェイスブック、データベースを活用した広報活動
- ・ 寄付キャンペーンの実施、会員の仕組みの見直し、増員キャンペーンの実施✕
- ・ データベースの活用：組織内で運用方法のルール化をすすめる。個人や団体に付属するカテゴリーの整理、スタッフが名刺交換した人たちのデータの一元管理、寄付の呼びかけやキャンペーン案内、セミナーや展覧会情報などの発信・申込み管理などを実施✕

*事業パートナー：北田郭時(広報・ウェブサイトの更新で事務局運営をサポート)

7. その他

- ・ 複数のNPOが事務所を共有する場合のルール見直し～地代家賃、賃借料、通信費、営業報酬や人件費▲
- ・ 東京事務局の縮小や移転を、アトリエ活動拠点とのバランスを考えながら検討する

➤ [総務]部門をふり返って

(1) 総会、理事会、会員に関する業務の体制の見直し

事業が5,000万規模に拡大し、スタッフとのコミュニケーションおよび事業の管理業務が拡大したため、キャパオーバーで理事会の運営や会員とのコミュニケーション（サロン等）が停止してしまった。令和4年度に、常勤職員が1名増えるため、スタッフ間での業務の分担に取り組む。

(2) 総務、経理の体制の強化

事業規模の拡大に合わせ、支払い業務などのスケモレを防ぐよう仕組みを見直し一定の成果は得た。ただし、国の委託事業（とくに文化庁・文科省）決算時の業務量は膨大であったため、内部人材または外部人材による体制の見直しをはかる。

(3) 広報まわりの体制の強化

現在、ウェブサイト・Facebook・インスタグラム・YouTubeチャンネル・Tiktokなど多様な広報メディアを使用している。それぞれの特性と広報戦略について、今一度、学びの機会をもち、NPO活動にとって最適な手法や持続可能な運営を探る。

[企画事業]

1. A/A gallery 事業

2. A/A shop 事業

➤ 方針

基本的には縮小の方向。都内に障害のある人のアートを扱うコマーシャルギャラリーや人材が増えてきている、販売事業もネットが主流になりつつあるため。

➤ 内容

せんだいクラシックフェスティバル（2021年10月1日～3日@日立システムズホール）

MHDアーティスト・スカラシップ・プログラムにおける社内販売会（2021年10月@MHD東京オフィス）

第5回障害と芸術文化の大見本市（2022年2月4日～8日@せんだいメディアテーク）

3. エイブルアート・スタジオ事業

➤ 方針

A. 運営委員会による独立採算事業を実施する。

B. セミナーやサロンなど、人が集う場や企画を実施する。

➤ アトリエ活動 会場：アーツ千代田 3331 B105（レンタルスペース）

アトリエ・ポレポレ	ファシリテーター サイモン順子さん	毎月第2、4土曜日 13:30～17:00	登録メンバー：25人 年会費5,000円 1回2,500円
エイブルアート芸術大学	ファシリテーター 中津川浩章さん	毎月第2日曜日午後 14:00～17:00	登録メンバー：30人 年会費3,000円 1回2,500円

ポレポレの運営は渡辺一充さん、芸大の運営は石川さん・宮原さんと、家族・ボランティアが中心。

・2021年度も同様に、ファシリテーターおよび運営スタッフと社会情勢をみて相談しながら実施可否を判断。
2020年度に取得した東京都感染拡大防止協力金を、不足する運営費に補充した。

4. エイブルアート・カンパニー事業

➤ 方針

・「障害のある人のアートを社会に発信し、仕事につなげる事業」の窓口として活動を展開する。



Able Art Company

➤ 内容

(1) 基盤整備

- ・ 新規作家（13 期）の募集を実施した。計 85 名の作家から募集を受け、2 月に選考会を開催。6 名の作家が選ばれ、6 月にはデビューを予定している。
- ・ 既登録の作家のうち 4 名が、作家の逝去や企業への就職などに伴いウェブサイト上での作品公開を取り下げた。現在公開している登録作家／作品数は 115 名／12,371 点。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、引き続き、オンラインをベースとした業務管理を行っている。
- ・ 3 法人 4 事務局間のコミュニケーションツールの活用や情報共有、業務のタスク管理に着手。
- ・ 新規リニューアルしたウェブサイトを活用し、作家の横顔や採用事例のストーリー発信に取り組んだ。

(2) 著作権マネジメント

- ・ 社会的な追い風もあり「障害のある人のアート作品を使用する」ニーズも増え、問い合わせが増加。新規案件の獲得および継続に向けた社会発信を行う。

- ・ 新たな分野、領域との協働

作品の使用の方法や使用される媒体の拡大に伴い、これまでつながりを生み出せなかったような業種や分野の企業とも協働が生まれつつある。

➤ 株式会社 Longs

過去に男性用アンダーウェアの製造で協働していた株式会社 Longs と、10 年ぶりとなる協働を開始した。第一弾として、株式会社 tabio も加えたトリプルコラボを行い、アンダーウェアの販売を行った。

➤ 株式会社 TENGA

性に関する課題にクリエイティブに取り組む会社。新たに始めた障害者の支援プロジェクト「able! project」に協力し、キーアイテムとなる「able! TENGA」へのデザイン使用をマネジメントした。

(3) アーティスト個人にフォーカスを当てた取り組みの企画・実施

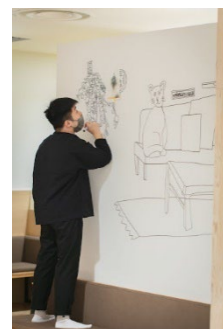
- ・ 多様な描きおろしへの対応

近年、登録作品の使用だけでなく、作家への新作の描きおろしを希望される企業も増加してきている。また、描きおろしの内容や使用方法も多様化してきており、作家との密な連携を図りながら協働を行っている。

➤ 株式会社良品計画

良品計画が内装を担当している建物（阪急阪神百貨店、東武動物公園）において、カンパニーアーティストが現地に赴いての壁画制作を行った。

- ・ 作品の二次利用だけでなく、より作家本人の創作や人間性に視点を向け、直接的なサポートにつながる事業を実施。アーティストとしての成長を促すとともに、作家個人の周知や社会への進出に向けたマネジメントを行った。



➤ MHD Artists Scholarship Program (MHD アーティスト・スカラーシップ・プログラム)

法人会員である MHD（モエヘネシーディアジオ）Public Affairs&CSR との取り組み。エイブルアート・カンパニーの登録作家に加え、社員交流したアーティストから、スカラーシップ対象者を募集。作家の実現したい夢を、社員が先行し選出。オンライン化により、アーティストによる成果報告、受賞者と社員が交流し抱負を語る時間が生まれた。2 年目は、東京ほか国内のオフィスで作品を展示し、作家と社員が交流。またファミリーデーでの作品や商品の販売を通じてアーティストへの直接支援も実現した。



(詳細) <https://www.ableartcom.jp/>



(4) メイク講座

障害のある人のメイクや身だしなみを支援する、株式会社ハーバー研究所（美容部、経営企画部宣伝・PR課）との共同開発事業。
福祉事業所、家で取り組める動画の配信と教材の提供を行う「オンラインメイク講座」を継続。受付、参加費回収、アンケート回収などの業務を行う。

(詳細) https://www.ableart.org/topic/project/202007_skincare&make.html



5. 鑑賞支援事業

(1) 美術と手話プロジェクト

- プロジェクトメンバー定例会議（月1回）
 - 手話通訳の提供、美術館との連携事業
 - ・金沢21世紀美術館にて、ボランティア研修を実施
- ※事業パートナー：西岡克浩（プロジェクト代表/AAJ会員）、市川節子、梅田亜由美（AAJ理事/現在は活動休止）、太田好泰（AAJ会員）、和田みさ、田中真理子、柴崎由美子（AAJ理事）

(詳細) <http://art-sign.ableart.org/>



(2) 六本木アートナイト関連企画 インクルーシブ・アート プログラム

六本木アートナイトは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、コロナ禍でもアートの楽しみを共有するために、オンラインによるプログラムを開催した。

期間：2022年3月19日（土）～21日（月祝）

全体総括：六本木アートナイト事務局

企画協力・コーディネーター：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

連携：厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業



プログラム①：「アートナイト TALK～鑑賞のいろいろ～」

日時：3月19日（土）18:30～20:00（YouTubeにて生配信）

内容：見えない美術鑑賞者2人と美術館学芸員によるトークセッション

出演：白鳥健二（全盲の美術鑑賞者）、井戸本将義、真住貴子（国立新美術館）

プログラム②：「言葉でたのしむオンライン鑑賞会」

日時：3月20日（日）昼の部 13:00～15:00／夜の部 18:00～20:00（オンライン開催）

内容：見えない人と見える人が一緒に作品を楽しむ対話型鑑賞プログラム

ファシリテーター：光島貴之（現代美術家）、山川秀樹、亀井友美（アートサポーター）、梅田亜由美（エデュケーター）、吉澤菜摘（国立新美術館）

作品紹介：白木栄世（森美術館）

プログラム③：「手話と身体でたのしむオンライン鑑賞会」

日時：3月21日（月祝）14:00～16:00（オンライン開催）

内容：聞こえない人と聞こえる人が手話や身体を通して鑑賞を楽しむプログラム

ファシリテーター：西岡克浩（美術と手話プロジェクト代表）、栗原郷

手話通訳：和田みさ（美術と手話プロジェクト）、原恵美

鑑賞作品協力：森美術館

6. 企画制作事業

全国

(1) ミュージアム・アクセス・センター設立事業（令和3年度文化庁補助事業）

本事業の初年度は、人材面とシステム面と2つのワーキンググループを立ち上げ、ヒアリング調査を行った。各所への調査をもとに、現状の課題やニーズを明らかにし、環境形成のために必要な人材像、プロジェクトの役割やシステムを構想し、自走化に向けた資金調達の方法等を議論した。

【ワーキンググループ】

- ・ 構成：人材グループ3名、システム構築2名、事務局4名
- ・ ワーキンググループによる事業化検討会議：21件
- ・ 人材グループ会議：3件、システム構築グループ会議：3件
- ・ 有識者との意見交換：3件

【ヒアリング調査】

- ・ ミュージアム：8件（国内：6件、海外：2件）
- ・ 障害当事者：16件
- ・ 鑑賞支援者：5件
- ・ ビジネスモデル（障害者含）：4件
- ・ 中間支援：5件（国内3件、海外2件）

※事業パートナー：安曾潤子、梅田亜由美（AAJ 理事）、太田好泰（AAJ 会員）、熊谷薫、松島宏佑

東北

(2) 障害者の生涯学習をテーマにした実践研究

2021年度は「スープノアカデミア」として、下記のふたつの事業に取り組んだ。

- ファーウェイ東日本大震災 IT 支援プロジェクト
 - ・ 勉強会3回、プログラム4回、成果の報告1回
 - ・ 仙台市の民間施設およびオンラインにて、金曜日の夜間に実施。
 - ・ 参加者27人、付添者6人、ボランティア17人、関係者10人、運営スタッフ15人。うちオンライン参加累計8人。
 - 文部科学省「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」
 - ・ 連携協議会3回、プログラム5回、オンライン読書会6回、成果報告1回
 - ・ 仙台市の生涯学習施設実施およびオンラインにて、主に日曜日の午後に実施。
 - ・ 参加者34人、付添者5人、ボランティア15人、講師・関係者17人、運営スタッフ21人。うちオンライン参加累計22人。
 - 「障害と芸術文化の大見本市」において、会場：せんだいメディアテーク7階スタジオシアター、オンライン配信で実施。
 - ・ 「スープノアカデミア」参加者による成果発表会、障害のある人の生涯学習を考えるフォーラムを実施。
 - ・ 登壇者16人、付添者2人、配信スタッフ7人、視聴・関係者15人、オンライン視聴65人（※）、せんだいメディアテークスタッフ5人、AAJスタッフ4人、合計114人。
- ※開催時間内の最大同時視聴者数。



※事業パートナー：仙台市生涯学習課/特別支援教育課/障害企画課、せんだい・みやぎ NPO センター、みやぎ生協、NPO 法人ポラリス、NPO 法人奏海の杜、東北大学石井山竜平研究室、櫻井育子（生涯発達支援塾 tane）、佐竹真紀子（一般社団法人 NOOK）、STO 斉藤翔太（STO ソーシャルテクノロジーオフィサー）他
（詳細） https://soup.ableart.org/program/2021%E5%B9%B4/soup_academia2021/

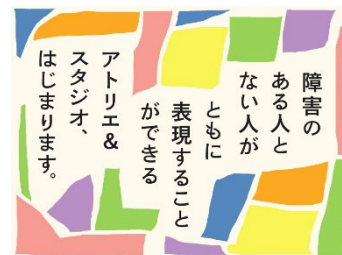


(3) 仙台市文化プログラム—障害のある人たちの文化芸術活動を支援・推進する計画

「SHIRO Atelier&Studio —ともにつくる芸術劇場—」

2018－2020 年の 3 年間の計画が、オリンピック・パラリンピックの延期に伴い、4 年目の活動継続となった。

- アトリエつくるて全 5 回、発表機会 1 回、ファシリテーター 2 人
- ・ 参加者 52 人、同伴者 20 人、スタッフ・関係者 27 人、合計 100 人。
- ・ 仙台市内の新旧の団体や関係者が活動を紹介する「障害と芸術文化の大見本市」、会場：せんだいメディアテーク、2/4～8 の期間で実施。2/5 には、アトリエ参加者と一緒にギャラリートークを行った。
- 広場の人形劇全 5 回、発表機会 1 回、ファシリテーター 2 人
- ・ 参加者 30 人、同伴者 24 人、スタッフ・関係者 30 人、合計 85 人。
- ・ 多様な市民がパフォーマンスなどを発表する「青文フェス」（2/26-27）で発表する予定だったが、コロナ感染拡大防止のため中止。その代わりに、3/26 に会場：仙台市青年文化センターにて動画の撮影のみの非公開で実施。その後、その様子はオンライン配信した。
- 協働型事業評価ワークショップ 1 回。
- ・ 仙台市文化プログラムを実施する PlayArt!せんだいと、仙台市、仙台市市民文化事業団と一緒に協働事業評価ワークショップを実施。



＊仙台市市民文化事業団が独立行政法人日本芸術文化振興会「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」の補助金を申請し、これが今年度の文化プログラムの予算にも一部充てられた。

＊事業パートナー：仙台市（文化観光課）、仙台市市民文化事業団

（詳細）<https://soup.ableart.org/program/2021%e5%b9%b4/shiro-atelier%ef%bc%86studio2021/>

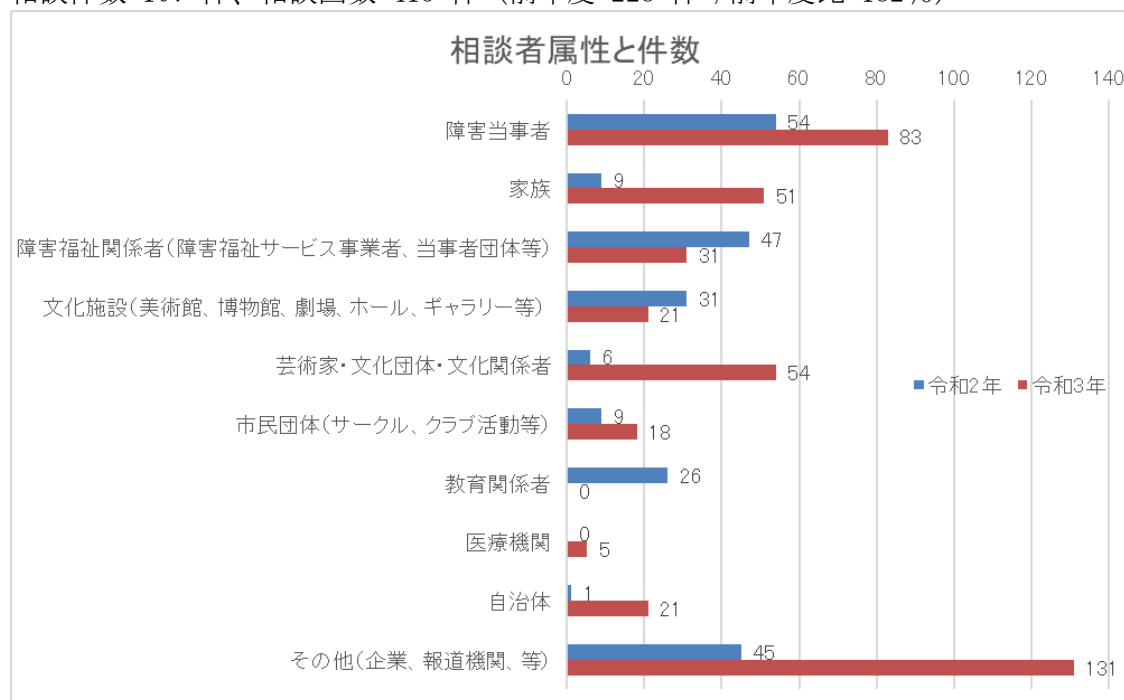


(4) 宮城県・障害者芸術活動支援センター運営（受託事業）

①相談支援

宮城県内のべ 50 個人/団体、宮城県外のべ 60 個人/団体 合計 110 個人/団体

相談件数 107 件、相談回数 415 件（前年度 228 件 /前年度比 182%）



②芸術文化活動を支援する人材の育成等

- 第1回 アートと工賃支給規程
2021/7/21 仙台市市民活動サポートセンター研修室5 & オンライン
講師：三輪竜郎（Good Job!センター香芝副センター長）＊1
- 第2回 重度の障害のある人と芸術文化活動 2021/8/23 Wonder Art Studio（ワンダーアートスタジオ）（仙台市）& オンライン講師：高橋雅子（ホスピタルアーティスト）＊1
- 第3回 芸術文化活動を〈生涯学習〉の視点からとらえてみよう
2021/10/19 交ゆう館奏海（登米市）
講師：太齋京子（NPO 法人奏海の杜代表）
- 第4回 ひろがる世界・ひろがる私〈美術館〉に行こう！
2021/11/11 塩竈市立杉村淳美術館（塩釜市）
講師：阿部沙斗加（学芸員）
- 第5回 インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響-Kyo の公演を観よう
2022/12/2 イズミティ21（仙台市）＊2



＊1：新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、研修をオンライン配信のハイブリッド型にて実施

＊2：「音楽・演劇・舞踏」に関する領域の活動は、厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業との連携事業として実施

③関係者のネットワークづくり

- ・支援センターのネットワークが弱い広域大崎圏域、広域仙台都市圏域・東部／北部での活動（塩釜市・松島市・利府町・大崎市・登米市）を重点活動地域とし活動した。
- ・支援センターの活動が、宮城県の芸術文化振興基本計画に掲載され、他領域との分野横断が顕著になってきているため、3年ぶりに行政関連各課の担当者や主要な組織を集めた協力員会を開催した。
- ・「アートを仕事にするネットワーク環境形成事業」（仙台市市民文化事業団）の創出に働きかけ、共催した。

④発表の機会の確保

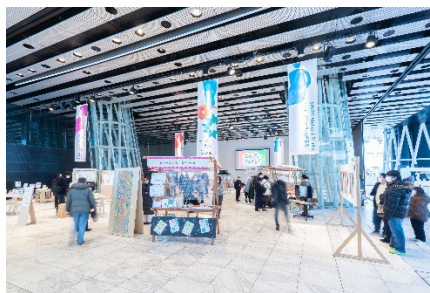
催事名：第4回 障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市 きいて、みて、しって、見本市。

日時：2022年2月4～8日 10：00～18：00

会場：せんだいメディアテーク オープンスクエア

内容：①「障害と芸術文化のブース」出展（29団体）、②「ニューカマーセブン」出展（7作家）、③「SHIRO Atelier&Studio-ともにつくる芸術劇場-」作品展とギャラリーツアー、④「としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示」、⑤「障害のある人と生涯学習」フォーラムを開催（YouTube 配信併用）。来場者は5日間で2,097人

① ②令和3年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務 ③ 仙台市文化プログラム（共催：仙台市、仙台市市民文化事業団） ④ 主催：仙台市民図書館、せんだいメディアテーク ⑤ 文部科学省令和3年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」（主催：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、共催：仙台市教育委員会、せんだいメディアテーク）



● ウェブ媒体	投稿数	ア ク セ ス 数 (2021年4月～2022年3月)
・ホームページ（東北） https://soup.ableart.org/	42	22,308
・ホームページ（法人本部） https://www.ableart.org/	37	67,872
・Facebook（東北）	123	30,054
・Facebook（法人本部）	133	97,060
・Youtube チャンネル	3	904

● 紙媒体	障害と芸術文化の大見本市チラシ
・学校（仙台市管轄）	仙台市特別支援学校・特別支援学級：生徒数 3,240 人
・学校（宮城県管轄）	宮城県特別支援学級：児童・生徒数 2,345 人、宮城県特別支援学校（幼稚部、小・中・高校）・私立含：生徒数 2,433 人
・福祉、文化、教育関係機関（宮城県）	仙台市内福祉施設 388 件、宮城県内福祉施設 535 件（それぞれ行政より最新データ入手後絞り込み）
・行政、美術館、図書館等文化施設（仙台市）	仙台市市民文化事業団関連文化施設への設置、仙台市市民活動サポートセンター「骨プロ」を利用した広報 1 回

⑥その他 宮城県在住の障害者アーティストの、国内外の展示発表・2次利用等の支援に係る取組

- ・日本博東北会場展覧会「日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル in 東北ブロック」（2021/10/16-10/24、盛岡市）：絵画 浅野春香・奏（仙台市）、パフォーマンス 2組（仙台市）
- ・東京都現代美術館渋谷公園ギャラリー展覧会「線のしぐさ」（2022/4/23-6/26、東京都渋谷区）：彫刻 松浦繁（大河原町）
- ・ベトナム tohe による自閉症啓発国際展「チャムチャム展」（2022/3/26-4/7、ハノイ）：紙芝居 清水敬太（仙台市）
- ・仙台市障害企画課による障害理解啓発による広報（ウェブメディア）での作品採用（2021/12-2022/3）イラスト シートン大友（山元町）
- ・仙台市市民文化事業団による「第8回仙台国際音楽コンクール」の公式オリジナルグッズの制作に作品採用：イラスト マッチ（仙台市）
- ・TOKYO FM「サステナデイズ」2022年4月の作品紹介に作品採用4件：絵画 浅野春香・奏（仙台市）、牧稔（山元町）、大竹徹祐（亘理町）ほか
（詳細）ecfa36157e257ee7132c3e5883a766d5.pdf (ableart.org)



北関東・南東北エリア

（5）障害者芸術活動支援センターの北関東・南東北広域支援センター運営

南東北・北関東ブロックは、6県のうち4県に障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）があり、2県が未設置である。障害者芸術文化活動普及支援事業以後、広域センターはなかった。そこで、ブロックレベルの広域支援センターを担うことで、対象地域6県の障害のある人々と支援センターの環境醸成に貢献する目的で活動した。加えて、国および全国連携事務局、他6地域の広域支援センターとの情報交流に積極的

に参加し、弊団体の実践をもとに、福祉・文化・教育・経済等の分野横断型の活動の必要性と、コロナ禍以降の社会変化に対応できる中間支援組織の役割について、提案活動した。

- ブロック支援センター連絡会議（全3回オンライン）
- ブロック支援センター研修（全5回オンライン）
- 茨城県の支援センター立ち上げと業務サポート、群馬県および関係者との情報交流
- 舞踊領域に関する企画運営（公演の招聘、障害のある人たちの鑑賞機会創出）
- 美術領域に関する鑑賞活動の企画運営（対象6県の支援センター職員等の研修を兼ねた参加支援）
- 広域センター、連携事務局との協働、評価と報告

＊事業パートナー：武田和恵（社福愛泉会ギャラリーら・ら・ら/やまがたアートサポートセンターら・ら・ら/山形/AAJ 会員）、岡部兼芳・小林竜也（社福安積愛育園/はじまりの美術館/福島）、梶原紀子・五味潤仁美（認定特非もうひとつの美術館/とちぎアートサポートセンターTAM/栃木/AAJ 会員）、小堀幸子（社福北養会いばらき中央福祉専門学校、特非ちいきの学校/茨城）、津田優希（ROKUROKURIN 合同会社/茨城）、群馬アートサポートネットワーク実行委員会（予定）

（詳細）<https://soup.ableart.org/program/2021%e5%b9%b4/koikicenter/>



国際交流

（6）Tram Cham 展（ベトナム Tohe×AAJ）

ベトナムの障害児者の文化芸術活動を支援する社会的企業 Tohe が主体となる企画に協力し、ベトナムで展覧会を開催。エイブルアート・カンパニーに登録している自閉症のアーティスト4人を提案し、作品の原画の発送やデジタルデータの送付を行った。

日時：2022年3月26日（土）～ 4月3日（日）※4月7日まで延期 9:30-20:30

助成：国際交流基金文化交流センターベトナム

主催：Tohe ソーシャルエンタープライズ（ベトナム）、エイブル・アート・ジャパン（日本）

協力：クロスフィールズ

会場提供：COMPLEX 01 Complex

（詳細）https://www.ableart.org/topic/others/202204_tramcham.html



（7）交換留職プログラム（ベトナム Tohe×AAJ）

日本とアジア新興国の社会的企業/NPO の知見共有を目的とした「交換留職プログラム」（トヨタ財団助成）を行う NPO 法人クロスフィールズとの協業。コロナ禍により、2020年9月時点で派遣時期が2021年夏に延期、2022年に再延期となったが、この間、職員間の交流、留職者の選定・派遣準備。

- 目的：参加団体間の知見共有（事業運営、組織運営等の観点等）、ミドルマネジメント層の育成
- スキーム：日本とアジア新興国の社会的企業/NPO をマッチングし、各団体からミドルマネジメント層 1 名を 3～4 週間派遣
- 時期と期間：2022年5月～6月※職員の派遣及び協業先団体からの社員の受入の両方を期間内で行う
- 団体と事業概要：Tohe <http://tohe.vn/en/> 2006 年創業、ベトナム ハノイの社会的企業、従業員数約 30 名 ①アート教室の運営など、クリエイティブな活動を通じて自閉症の子どもたちに情操教育を提供し、子どもたちの成長を支援、②子どもたちのアート作品をデザインに替え、ファッションアイテムや雑貨を製造・販売（収益が子どもたちへの情操教育を継続的に提供するための資金源となっている）、③子どもたちの経済的自立をサポートするため、2020 年より職業訓練及び就労支援プログラムを新たに立ち上げる予定
- 費用：旅費（渡航費・国内移動費）、日当、通信費、その他（予防接種代、海外保険、渡航用ビザ）は助成金にて支出
- 派遣者：平澤 咲（東京事務局）

7. 調査研究事業

2021 年度はなし。

8. 出版事業

2021 年度はなし。既存の書籍は販売する。

9. 助成事業

- フェリシモによる寄付「小さなアトリエ基金」を継続。基金の拠出は 2022 年 6 月。

10. その他目的を達成するために必要な事業

● 日本 NPO センターが主催する「市民セクター全国会議」への参画

NPO 法施行 25 周年にあわせ 21 年度に延期開催。宮城・仙台、新潟・上越、福岡・大牟田の 3 地域からオンラインによるプログラム発信が行われた。日本 NPO センター評議員（柴崎）の立場から、宮城・仙台地域のプログラム立案と運営を行った。宮城・仙台では、＜東北発 市民セクターのスクラップ&ビルド!? 「つながりのデザイン」＞をテーマに、新井信幸さん（東北工業大学教員／NPO 法人 つながりデザインセンター）、大沼剛宏さん（つながる湾プロジェクト）を迎え、セッションを行った。

➤ 2021 年 11 月 26 日（金）オープニング、11 月 27 日（土）プログラム

＊事業パートナー：日本 NPO センター、せんだい・みやぎ NPO センター（仙台市市民活動サポートセンター運営団体）、杜の伝言板ゆるる（みやぎ NPO プラザ運営団体）、東北工業大学新井信幸研究室、認定 NPO 法人つながりデザインセンター、つながる湾プロジェクト

● アートミーツケア学会 仙台大会

仙台で開催される学会にて、物販やオンライン配信のサポートに協力した。

2021 年 12 月 4 日（土）、5 日（日） 会場：せんだいメディアテーク

主催：アートミーツケア学会（一般財団法人たんぽぽの家内） 共催：せんだいメディアテーク

● ボランティア・インターンの受け入れ、事務局サポーターの設定

- ・ ボランティア・インターンを積極的に受け入れ、事業の参画者をふやしていくよう試みた。とくに東北事務局でそれが充実した。

- ・ 日本 NPO センターとコードフォーージャパンによる「STO（ソーシャルテクノロジーオフィサー）プロジェクト」からの派遣受入を継続した。

- ・ 障害者の生涯学習事業において、オンラインサービスによるプログラムの開催方法やネットワークづくりなどについて、STO のアドバイスを参考に実施した。

- ・ 障害者芸術活動支援センター@宮城のウェブサイトのリニューアルにあたって、STO のアドバイスを参考に進行した。2022 年 3 月にリニューアルが完了。

● エイブル・アート・ムーブメントの協働団体との連携

一般財団法人たんぽぽの家による事業への協力

- ・ 「知財学習プログラムの普及」、「コロナ禍における仕事づくり」、「福祉をかえる『アート化』セミナー」ほか

以上。